Kadokawa Comics A

小玉有起

13

ハア

ハア

ハア

ブラッドラッド

ハア

ハア

ハア

そいつは
よかったな…

じゃあまだ
モヤモヤしてん
のは俺(おれ)だけ
って事(こと)か…

そーね…

あー

…スッキリした

NIGHT
MARE
FAN
UB

第61話 対峙する時

小玉有起（コタマユウキ）

CONTENTS

第61話♠対峙する時…001

第62話♠渡る世間は鬼ばかり…039

第63話♠それぞれのルート選択…073

第64話♠覇者の世界…107

第65話♠魔楽器デッド・リゾート…141

ここ…私の思い出の場所なの

70°

ペタ

何の建物なんだこれ

さあ？

私も知らない…

ずっと前から使われてない何かの施設っぽいけどね

小さい頃…私が悪い事とかしたらよくパパにここへ落とされたの

下は水と岩で空間魔術で戻ってこれないから

それでいつもやっとの思いでこの建物にたどりつくの

今みたいに自力で泳いでね

そしたらこのドアの前にパパが立ってて…

よぉ…頭ぁ冷やせたか？

I ♥ NEY

入れよ ベル

私を許してくれた…

…ここはそんな場所…

ギィ…

つまりお互い
頭を冷やして
冷静になろうぜ

って事か

そっか…

クン
クン

うん…だから
私はたまに一人でも
来るの…

バサ

今みたいに
クールダウンしたい
時にね

パチ…

ゴオ…

……

11°4…

11°4…

…それで

今…こう…クールになった訳だろ？

この火の感じとか見て…

うん…

それでよ…その俺の聞き間違いじゃなきゃ…さっきお前って…

うん…

言ったよ…

そ、

いや…おい…

好き…

好きって言った

私…

ついいいいい

りりりぐぐぐ

ちょっやめろ…

グリグリ

すんな…

キャ――!!

全然冷静じゃねーじゃねーか!!

落ち着け!

ぐりぐりぐり

落ち着かせてえええ

…ったく

そーゆー冗談はもういいんだよ

俺はお前が隠してる事を知りた…

やっぱし…

バット振ってもくんないんだ

は?

ゲッ

覚えてる?

前にあんたと今みたいに二人っきりになった時…

ドド

私じゃ駄目…？ってきいたの
あれ本気

隠してるつもりなかったんスけどね…？
う…うそだろ

だってあれは俺をおちょくって……
そんなもんなくて読みとれやあ!!

よ…読みとれるかそんなもん!!
そこをもっとグイッとそっちから切り込んできなさいよ!!
無茶言うな!!

…でもう
わかったでしょ

これで全部なの！

これが私の本気…

あんたが
知りたがってた
秘密…

誤解…

されちゃい
ますよ…

今ちょっと
姉ちゃんが
来られないから…

…たく

めんどくせえよな
…女ってやつは

…そうか…

今…俺の中で
点と点が…

線に…

…多分この事を…

もう気付いてないの
あんただけじゃ
ないの…

キャ!!

やっと…
伝わった…

これで…

ほんとバカ…

全部終わりだ…

どうなっても…
私は…

……

…何で

俺なんだ？

え…

好きになる要素…無くね…？

え…何言ってんの…

いやだってよ…

どう考えてもおかしいだろ…条件が整ってねぇ!!

…条件…？

例えばだ…！

お前がピンチの時…

颯爽と現れた俺に
救ってもらった…
とかよ

そういうキッカケが
思い浮かばねぇんだよ
どうしても…

俺がお前になんか
してやった事なんて
ほぼ無ぇだろ!?

なのにそんなのよ…
わかんねぇって…

変だろ…!?

ぶ

アハハハハ

ゴロゴロ

条件満たさないと
好きになんないとか！
マジで言ってるとか！

ほんっと
バカ!!

オタ臭～
TVゲームとか
やりすぎ!!

はぁ

…それに

自分で言ってて気付かないの…？

あんたの言ってるその条件…

満たし続けてるのがフユミンだって事…

…私…

気付いちゃったんだよね…

どうなっても…

もう…

私の欲しいものは手に入らないって…

でもよぉ
ベルちゃん

？
何スか？

結局…その
スタズのドコが
そんな好きなわけ？

私ぁ 会った事
ねぇからよく
わかんないけどよ―

もう冬実って
ツレがすでに
居んだろ？

それを差し引いて
でも熱あげる
価値の男なの
かよ？

差し引く…

もしかして
だけどよ…
ベルちゃん

あんた冬実
込みで

スタズが
好きなんじゃねぇ
よな？

……

なんとなく…

わかってたはず
なのに…

…わかんない…

私が好きなスタズは

バカだけど必死に
目的に向かってる
スタズで…

ただそれは

フユミンが居るからで…

私が思いを
伝えて…

目的を捨てて
来るような
スタズなら…

っっっ

私…多分…

あんたの事
嫌いになっちゃう…

……

あ？

どっちなんだよ…

どっちかよ…

好きのままで

いさせて？

だからお願い…

お…おお…
よくわかんねぇけど…

うん…
それでいい

そ…そうか

それから…

俺とベルは
しばらくそこで
体を乾かした

…お前
そんな顔で
笑えたんだな

俺は…

ずっと考えていた…

何よホレちゃった？

変な気おこしちゃ
だめよ スタズ

心を読むのは
難しい

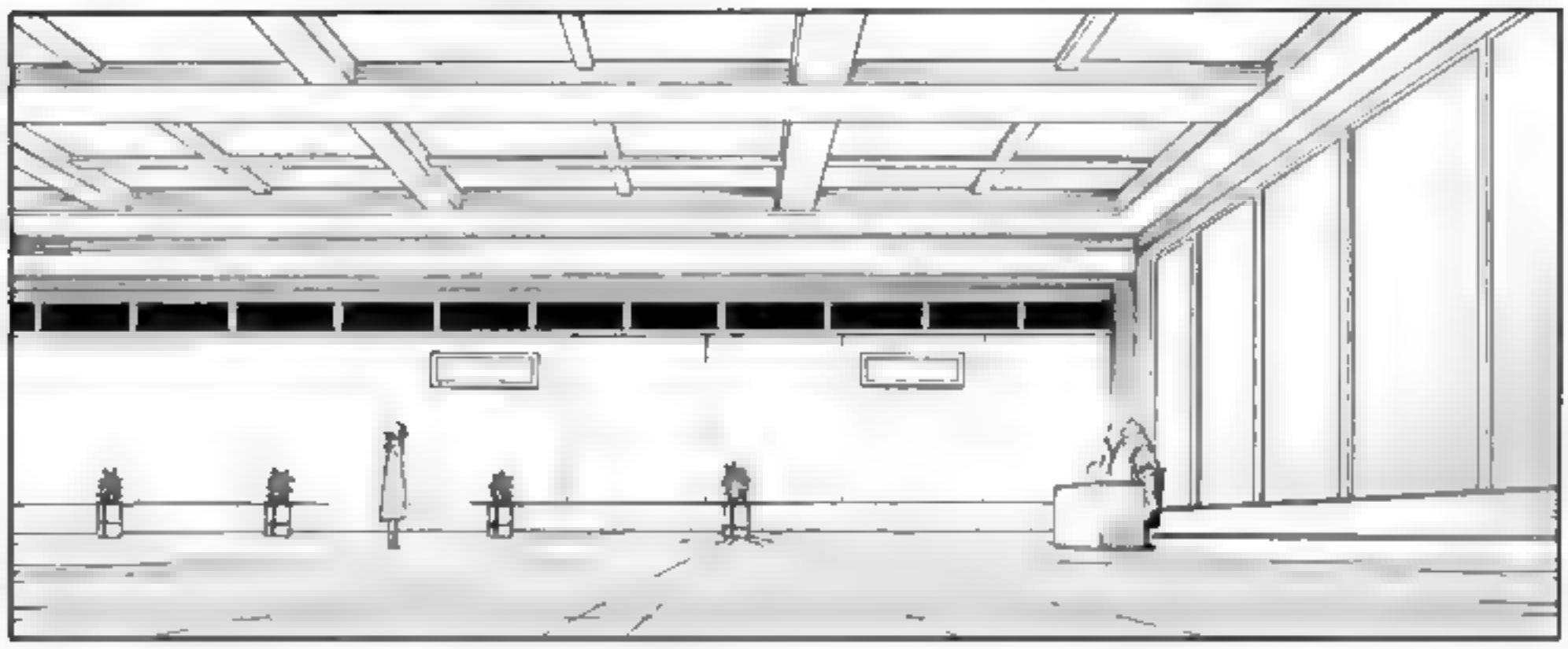
思っていた以上に
ずっと複雑だ

ぶっちゃけ
自分の心ですら
よくわからないが

いつか
わかる日が
来るんだろうか

そんな事を
考えていた…

——3日後(かご)——



それで…
その後…君の新しい友達の様子はどうだね？ ミスト君

友達…と呼べるほどまだ親しくはないですね
彼等は森の動物達とは違って素直ではないので…
しかし…そうですね…

オオ

徐々にですが…

オオ

お互いの事を
認めだしている様に
思います

くくく…

楽しいなぁ？
ドージ

……
何がそんなに
楽しい……

ハイドラに来てから
ずっと俺達は
戦い続けてる

特にこれといった
理由があるわけでもなく…

ただ何となく…

それのどこが
楽しいんだ…？

わかってねぇな…

それが
いいんじゃねぇか

俺が一発
くらわしたら

コキ

今度はお前が
俺にくらわす

それをし続けて
ドッチも今立ってる
互角の状態…

それがすげえ
イイんだよ

俺は死なない…が

俺はお前を
殺せてない…！

ドゴ

それが…

最高(さいこう)にイイ

いいや…

……

五角じゃない

俺は今 手を抜いて相手してやってるだけだ

ズダダ

何だと…？

オオ

自己防衛本能(ノーサイドラーク)…

お前(まえ)をその状態(じょうたい)にしてしまったら俺(おれ)が殺(や)られてしまうからだ…

つまり加減(かげん)せざるを得(え)ない

あ？

…だからそれは

勝(か)てねぇって事だろ俺(おれ)に

勝(か)ち負(ま)けの問題(もんだい)じゃない

五角(ごかく)じゃねーって言(い)ってんだよ

ぬあああああ

！

あああああ!!

…どうだ？

っ…

今…理性のあるお前は

俺に勝てる…そう思えんのか？

思えないなら
お前の負けだ…

そうだろ？

勝った負けたは
理性ある者が
決めるからだ

テメーは…

我を忘れ…
気がついた時に

目の前に
転がった骸を
見て…

「勝った」って
思うのかよ？

ダセェ事
ぬかしてんじゃねえぞ
ジャック…

まずは俺と

互角で張り合える
理性の拳を
持ってこい

話は
それからだ

♪♪♪♪♪

ﾊﾟﾝﾊﾟﾝﾊﾟﾝ

♪

♫

…心地いい歌声だったか？

…心地よくはねぇけど…

そのぐらい抑えめならなんとか聴けるな

…どうだ？気分悪くないか？

♪♪♪♪♪

やめろ!!うるせえ!!

…だめか…

じゃあこの音はどうだ？

……

…とまぁ…

ブラックリストの方は順調と言っていいだろう

そうか…

ブラッズの方はどうなってる？

……

それがかなりマズイ事になってる

…何があった

これを見てくれ…

ブラッズから送られてきた一番新しい写真だ

…こいつは…!?

アキムの造った新しい子供だ

名前はアンバー

96800.org
scanning...

その推定魔力値…
96800オルガン
……

！

バカな…!?
9万オーバーだと!?

あり得ない数値だ…

あぁ…

アキムはすでに二人の子供にその魔力を分けている…

1930200オルガンの内…
それぞれ57000
54000を与えた

193020

つまり今のアキムの魔力はこうなっているはず…

82020

54000

57000

しかし新しく生みだされたアンバーは

そのアキムを凌ぐ魔力を持っている

これがどういう事か…

ハイ。

何度(なんど)やっても同(おな)じだ

この遊(あそ)びは楽(たの)しくない

んー

やっぱりケリーだけじゃ役者不足(やくしゃぶそく)か…

バーガンディは帰(かえ)ってこないし…しょうがない

それじゃパパと遊(あそ)ぼっか☆

遊(あそ)びにならないかもしれないけど…

…いいのかい？

俺(おれ)の力(ちから)なら…

パパを壊しちゃうかもしれないよ？

フッ

やってごらん

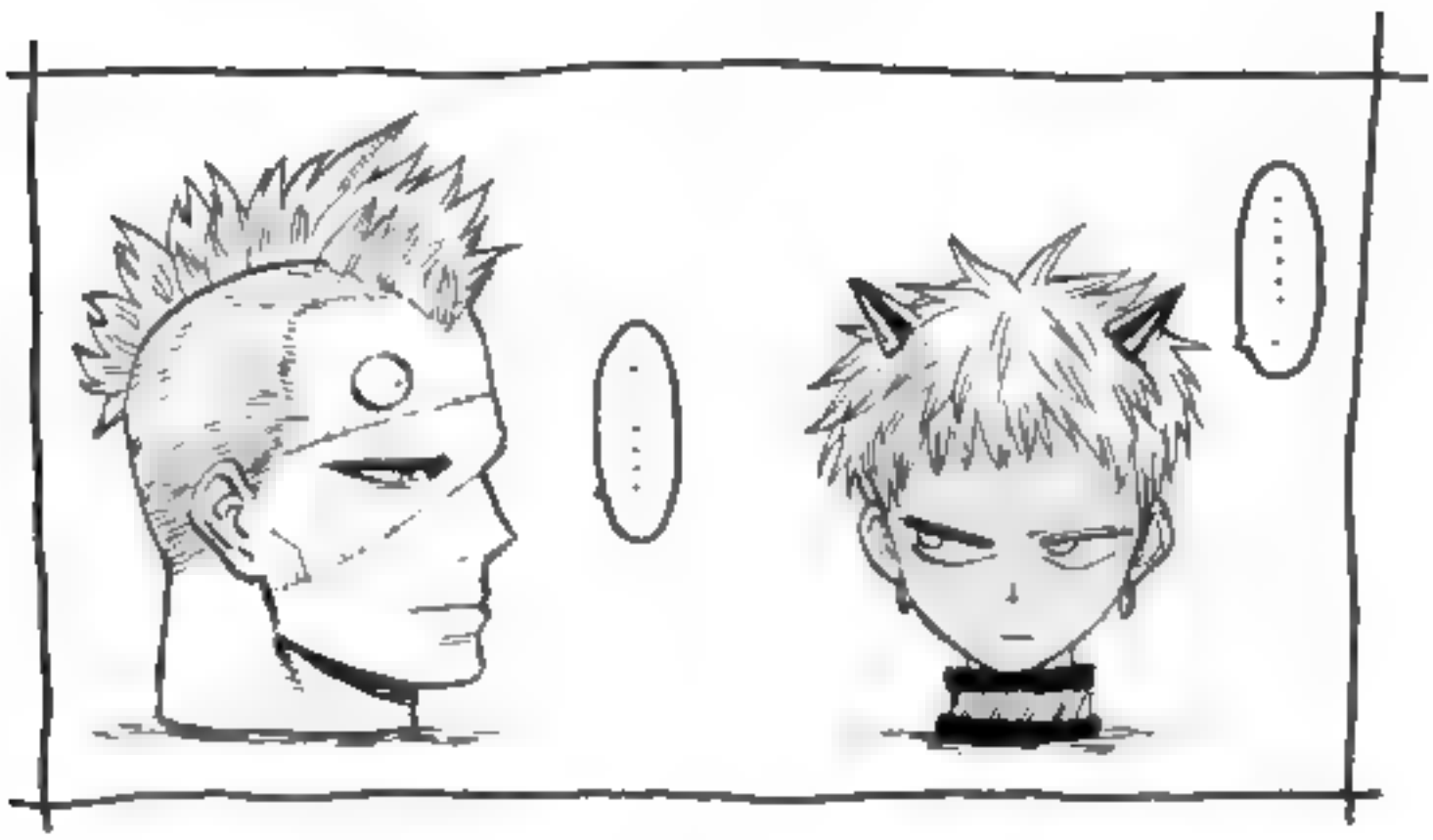
これが…
一緒に送られてきた
アキムの新しい
数値だ…

2693200

やっぱり…

遊びにならないか…

♠つつく♠



第62話♠渡る世間は鬼ばかり

ふぁ〜
よく寝たー
ホカホカ
いいにおい…
あ…
おはよう
おいしい
そういえばチーズもあるけど…？
何ー？これ
この辺で採れた野菜のスープだよ
ふーん…
パンと一緒に…
いる

ちょっと
待っててね

……

パティ…

お前…少し
心を許しすぎ
じゃぞ

……

わかって
おるのか？

あいつはお前の
命を狙うアキムの
手先なんじゃぞ

…わかってるよ

隙を見せずに
隙を探れって
いうんだろ…？

でもそんなの
よくわかんないよ…

もぐもぐ

だってあの子…
ずっと隙だらけだ

……フム…

…多分(たぶん)だけど…

弱点(じゃくてん)なんてないんじゃないかな…

昨日(きのう)だって…

ねーねー何でここに住(す)んでるの？

え？

ここ何(なに)もないよ

飽(あ)きちゃった

つまんなーい

あーあーもっと沢山(たくさん)族がいるとこで

ゴロン

大暴(おおあば)れしたいなー

…そんな事(こと)言われても…

そうすれば楽しいのになー

楽しくないよ…

そんなの全然(ぜんぜん)…

グ…

どうしたの？

？

そういうのが楽しくないからだよ…

……

僕がここに居るのは…

誰かにここには何も物がないけど…

だからこそ
できる友達も
居るんだよ

なぁに？ それ
…おもしろいの？

……友達？

あの子には

弱点どころか何もないんだ

きっと僕以上に…この世界からかけ離れた存在なんだよ

…だからこそ危険なんじゃ…

善も悪も無い無垢な子供にとって

親は絶対じゃからの…

弱味があるとすればそこじゃが…

離しいの…

でも師匠…

これって結局あの時と同じだよ…

何…？

師匠が教えてくれたんじゃないか…

自分じゃ手に負えない怪物は…

押さえ込むんじゃなくうまく共存しろって…

いや パティ…
それとこれとは

僕は僕の中に
居る怪物と
共存できてる

だからきっと
あの子も僕も
生き残れる方法は
あると思うんだ

ねー

チーズ
まだ？

あっ ごめんごめん
すぐ持ってくよ！

おい！

それはどうする
つもりじゃ…
つまり

実は今日
約束しちゃったんだ

友達は
おもしろいって
教えてあげるって

パティ…

…お前は…

魔族として
生きていくには
やさしすぎる…

そのやさしさの
分だけ…

傷つく事に
なるやもしれんの
じゃぞ…

約束の日まで
もう何日も
ない…

その日は
必ずやってくる

残り15日

アキムの保有魔力値　278900

……おい…
こんなのどうしろっ
てんだよ…

それを
考えるのが
我々の仕事だ

ただ一つ
わかるのは

今のままでは
まず勝ち目は
ないという事だ

ブラックリスト3人の
力を合わせても
アキムの魔力には
到底およばない…

それに加えて
ケリー

バーガンディ

アンバー

この3人が
立ちふさがっている

改めて絶望以外の
何物でもない
状況だな

表面上の
データだけを
見ればな…

B·T·R
PRISON

？

何だ？
何かまだ他に
あるのか？

ああ…
内面的な
部分で

おそらくアキムは
グリムの魔力を

完全に自分のものに
しきれていない

本人は
気づいていない
しれないが…

目に見える形で
その変化が
現れだしている

…どういう
事だ？

例えば
アキムの
一人称

僕と言っていた
はずだが

最近 しばしば
俺という時が
ある…

そして
あの髪型は

ありし日の
ヘルシャフト・グリムと
同じ型をしている

カチャ

カチャ

そして
子供達の名前…

ケリー・バーガンディ・
アンバーはそれぞれ色の
名前をつけている

王の部下で
色の名前といえば…
そう 彼等と同じだ

殿堂王 直属部隊

通称
魔カラーズと
呼ばれる者達は

ヘルシャフト・グリムが
はじめにつくった

色の子供達だと
言っていいだろう

……

…それじゃあアキムは…

そうだな…アキムの人格が今どういう状況にあるのかはわからない…が

調べてみる価値はあると思う

ガラッ

!

誰だ…!?

なるほどね…

そういう事なら協力できるかもしれない

ピッ

…お前…
今の話を…

ああ…悪いけど
ずっと盗聴させて
もらっていたよ

君達の目的と
僕等の目的は
同じだ

アキムに仕え
アキムを刺す…
そうだろ？

実は僕等の味方に

アキムの内面を
探るのにうってつけな
能力者がいる…

何だよ…それ

あっ いや…
その…

昔とか取れてたし…
もしよければ
我輩がその…

手当てを…

必要ない

今 私は
機嫌が悪いんだ
話しかけるな

っっ

そ…そうで
ありますか…
しゅん
ちょっと頼りない
けどね…
うまくいけば
アキムを形成している
成分がわかる

なるほど…
…しかし そんな
能力者がいながら
我々に協力を
持ちかけてきた
という事は
するどいね…

読取人を発動させる
には条件がいる…

対象者の身体の
一部…
できれば髪の毛を
最低二十本
体内に摂取しな
ければいけない

…摂取…？

つまり飲み込んで
アキムの成分を
読む…という事か

そう…

だけど
僕等の立場では
髪の毛をもらう
ってハードルが
高くてね…

君達なら…

理由をつけて
手に入れる事が
可能…とみた訳か

そういう事

どうだい？
悪い話じゃ
ないだろ？

……

オオオオ

いいだろう…

ドロン

ズロロロロ

殺

おらおらどーした!?

フッ殺してくれんじゃなかったのか!?

フ――ッ

フ――ッ

ブォ

フオオオ
ズッズッ
……うむ

疲れたんなら
肩揉んで
やろーか？
トン

早くも
修行の成果が
あったみたいね
うむ…

私達の
おかげだ
おっと…
それは秘密の
はずでしょ
…そうだった
フフ

何か成長した
みたいだね…
スタズ達も…
姉ちゃんも…
フユミン

もう二度と遅れないで
ここから

私や他のみんな
いにもね…
いい？

ここから…

俺悪いことするよ
れこそ「この
私にもなんっぽに
事やらせとよ

……え

スタスの事に
こにもそうよ…

お…大丈夫だよ

俺すぐ帰りますから
んとここにそに

洗い物も任せろって

自分の気持ちに
素直に生きるのよ

……

だから、
私が言いたいのは

どうしたんですか
急に…

フユミンは

今まで通り
スタズの側に
くっついていれば
いいの

ズゥン

……

おかった～

フーッ

フーッ

フーッ

タイム…

アップ…

テス…

何だよ もう終わりかよ

延長して やろうか？

ボニ…

冗談だよ

バサ

バサ

もう帰っていいぜ

バサ

バサ

む？

チュース

教官さんにお届けものがアル――ッス

教官？

あ…私か

チャッス

ハンコかサインウィッス

何だ？

お…これは

ついに…

コミツの教官ノート

次の修行が来たようね…

なになに…

あの…
ハンコか
サイン…

ウィッス…

！

…え…

ヒミツの教官ノート

どうした

見(み)せてみろ

ダメよ！
これは教官(きょうかん)しか
見(み)れないの！

いやもう
いいから
その設定(せってい)

設定(せってい)じゃなくて
実際教官(じっさいきょうかん)なのよ
私(わたし)は！

今(いま)さっきまで
自分で忘れてたろ
それ…

チス…

二人も

まぁ いいや

それで？

何(なん)て書(か)いて
あったんだよ

…あんたって
地図持(ちずも)ってんの…？

は？

ステップ2
スタズの持ってる
地図の場所を
目指そう！

……

ヒミツの教官ノート

そーいやあったなぁこんなの

すっかり忘れてたぜ

兄様が描いたのを忘れるな！

そっか姉ちゃんは地図の事 知らなかったんだ

……何なのよこれドコ？

……

そういやジジイ

この場所を知ってるような事言ってたな…

っつうか元々ここに向かってたんだろ…確か

ついに進むって感じか

そうね…この家の裏山を登っていけばいいみたい…

ただし

スタズとウルフは専用のハイキングセットで登る事…だって

？

そんなんどこにあんだよ

わ…私がサインしましょうか…？

え――っと…

この倉庫にあるって書いてあるけど…

俺 この胴着気に入ってたんだけどなぁ

ヒーツのおやすみ

#100

どれどれ…

お！

ハイキングセットA

ハイキ セ

あったあったみんなのもある

私のとー…フユミンとネルとーテン…リズちゃんの

ゴゴゴゴゴ

ハイキングセット ウ

ハイキングセット ス

…でかくね？

……もしかして

ゴゴゴ

俺達の…あれか？

ハイキングセット ス

ハイ セット ウ

やーん♡
アア
動きやすーい
姉ちゃん好きそうだね こういうの
はっ
リスちゃんかわいい～
……
これ冬実のと同じやつだぞ
ちょっとサイズが大きいんだ
キャッ
キャッ
それがいいんですよね——
ボロ
…おい

お前等
楽しそうだな

ウソだろ
これ

ハァ
ハァ
ハァ
ハァ

ああ 笑うがいいさ…
ただなぁ…
この服…

すっげー重…

ヒー

ファーハッハッハッ

ハイキング
セットー!!

鳥!! テメーは
笑うんじゃねーよ

あーもう
面白いから
サインしちゃう
ぜ――

ヒーラ

粘ってて
よかったス

ゲラゲラ

イーモン
見れまっレた

ウエ――イ

バサ
バサ

あいつ
今度見かけたら
石投げようぜ…

そんで何？
それ重いの？

重いなんて
ちんじゃ
ねェよ…

暑いし…

これで坂道とか
リアルに死ぬんじゃ
ねェか

いいじゃない
わかりやすい
修行って感じで

あちなみに
それでね…
途中の休憩
ポイントまで

二人で競走
だって

勝ったら水分補給
負けたら腕立て
100回だって

は？

ゴゴゴゴ…

さぁ 張りきって
いってみよー！

む…無理しないで
下さいね…

本当にこれ
指示にあったの
かなぁ・

位置について――

よーい

ゆっくり行こうぜ

ああ…一緒にゴールしようぜ

ドーン!!

ぬうおお

ガシャ

ガシャ

おおおお

ガシャ

ガシャ

ドドドド

うおおおらあぁぁ

水(みず)は俺(おれ)のもんだおらあああ

ウオオ
ドドド
全力じゃん…
アッハッハッハッ
だと思ったー

ポロ
トン

ハサミ

セットを着て登る
注意!!
競走にならないように!
あんまり無茶すると
死んじゃうぞい♡

おっと
いけねぇ

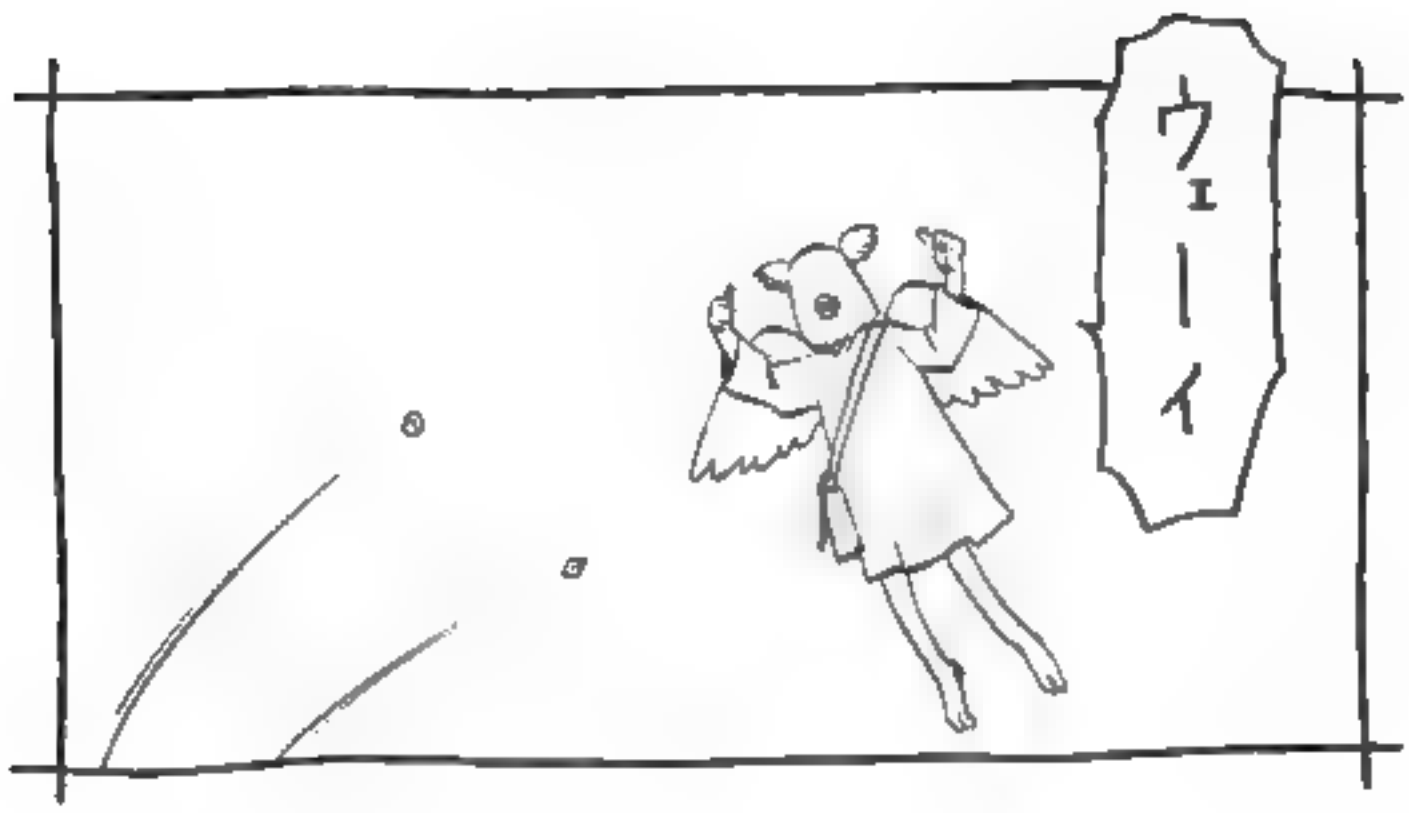
見えちゃった?

鬼…っ

ゴクッ

しー

♠つづく♠


ウィーイ

ガシャ
ガシャ
ガシャ

ハァ
ハァ
ハァ

ハァ
ハァ
ハァ

ほらほらー!!
最初の勢いは
どこ行ったんさー?

第63話♠それぞれのルート選択

あとちょっと
なんだから
ダッシュよ!!

この水が
欲しく
ないの!?

ガシャ
ガシャ
ガシャ

あと10秒以内に
着かないと
私が飲むわよ!?

9

8

ガシッ

7
6
ぬぐ…
5
3
2
ぐ
4
おおお
1
ああああ!!

ゴール

…ほぼ同時だ…

ウルフの勝ち！

ええ!?

ちょ…ちょっと姉ちゃん？

あんたは黙ってなさい！

水…

おーよしよし

よくやったねぇお飲み

ゴゴゴゴ

俺も…水…

は？

ダメよ あんたは負けたんだから 腕立て100回

…お

あ――うめぇ

ウルフ…

おう スタズ

残念だったな

俺にも…それ

腕立て

カラッ

頑張れよ

はいっ つーことで

私達はこの上の休憩所で休んどくから

あんたはちゃんとこの場で100回やってから来なさいよ

フユミン

悪いけどスタズがサボらないように見張っといてくれない？

はいこれ 絞った時の水

は…はいそれはいいですけど…

ほ…本当に100回も…するんですか

このお水…それまであげないって…私…

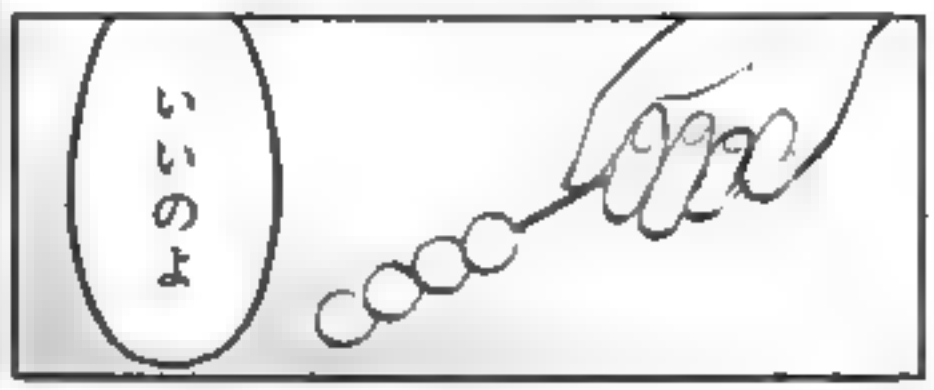
…そうよね

じゃあそのへんもフユミンに任せるわ

え？

何か変だと思ったら
そういう事か
まったく
みやげ
だんご
姉ちゃんも
おせっかいやき
だなぁ
あん？

何よ あんた…
そのお団子
いらないなら
もらうわよ
でも
これで本当に
よかったの？
あむ
私も…
自分の気持ちに
気付いたように…
フユミンにも
気付いて欲しいの


いいのよ

これはそのキッカケ…

くそが…

このハイキングセット…腕立てできる造りになってねぇ

(ハテ?)

(ハテ?)

だからもういいんですって

水も飲んで下さいよ…

#ミ(ゆ)

そうはいかねぇ…

こうなったらもうやってやんだよ…

絶対水は終わるまで飲まねえ…

……

わかりました…

では…

！

ガボあ

何すんだよ!?

はい
飲みました
ね!?

これで
おしまいです！

馬鹿やろう!!
こんなんで あの
大福教官が
納得するわけ
ねぇだろうが

もう…変なとこ
真面目ですね…

いいん
ですよ

ベルさんは…

私にスタズさんを
任せるって言って
ましたし…

だから
私がいいって言ったら
いいんです

……

わかりましたか？

お…おう？

はい

じゃあ脱いで下さい

は？

汗ビチャなんですからタオルで拭かないとだめですよ

……

風邪ひいちゃいますから…

これを使え

ふう

何だよ やさしいじゃねぇか

急にどうした？

お前はチビのくせによくがんばってる

見直したぞ

…チビに言われてもなぁ…

何でもねぇよ…ありがとな

何だ？

次はもっとぶっちぎりで勝て

スタズなんかに負けるなよ

……言われねーでもそのつもりだ

ほーう

どうやら小さい教官はウルフのセコンドについたようね

これはいいわ…フフフ

また何か企んでる…

ガシャ

ったく 今度は
どうしたんだよ

急に世話やいて
くれるじゃねーか

もしかして そろそろ
給血の時間か？

な

違います！

スタズさん 私…

そっか…
ならいいけどよ

欲しい時は
遠慮なく言えよ

ずっと見てましたよ

スタズさんの事…

あ…

何か気持ち悪い言い方になっちゃいましたね…！

その…変な意味じゃなくてですね…えっと…

何だよ落ちつけよ

……は？

……

実は私も…

スタズさんの気持ち…わからないです

私ってどういう存在なんですか…？

正直…自分の気持ちもわかりません

胸がドキドキするのは

スタズさんの血が…

欲しいだけなんでしょうか…

必ず俺が先に
お前の気持ちを
見極めてやる

これはそのための
修行だからな

……

ん？ なんか俺
おかしな事
言ってるか

……いいえ

スタズさん
らしいです…

！

何だそのちょっと
「わかってましたけど
やっぱりそっか」的な
感じは…！

きてはお前…
そうは言っても
すでに俺の心を
読みつつあるんじゃ…

もう…
いちいち大袈裟で
わかりやすいですよね
スタズさんて

何イー!?

その調子で私の心を
読むの頑張って
下さいね

応援してます
から

それじゃ
私 先に上行って
待ってます

…この…

待ちやがれ――!!

何たその今までにない
サディスティックな
一面はー!!

ガ"ッ
ガ"ッ
ガ"ッ

まあ いいわ
ちょうど今 次のハイキング修行のルールを話してたとこよ
ヒミツの修行ノート
そうだ
私と勝負だ 冬実
え？
今度の修行は二人一組でやるんだ
そう…ここから先はもう激しい坂はないんだけど
足場の悪い山道を行く事になるのよね
つまりハイキングセットで行くにはバランス感覚とルート選択が重要になってくるわけ
焦りは禁物よ

でもだからといって
あんた達二人で
おっかなビックリ

協力し合って
仲良く行くのも
つまんないっしょ

ってここに書いて
あるのね

書いてない
絶対
書いてない

だからその
協力する相手を
別にして

今度はチーム
しようって事なのよ

ちょっと待て

焦るなって言っといて
バトルって
おかしくねーか

お

焦んなきゃ
負けんだろーが

うん？…まあ
確かにそうね

痛いところを
つかれたね…

ごもっとも
だけど

オフン

どうするんだ…
姉ちゃん

早い方が勝ちだなんて誰が言ったの？

姉ちゃん…!?

！…何だ違うのか

そ…そうよ早とちってもらっちゃ困るわね

じゃあどうしたら勝ちなんだ

そ

それを今から言うつフーの！

えーっと…？

何で自らを追い込むような事を…

そうだ！

ガタ

そうだって言っちゃったよ…

今日はキャンプ…！みんなでキャンプするのよ

？

だ・か・ら♪

その時に食べる食材…！

リーチ！！

より良いものをとってきた方の勝ちよ！

……

それはつまり…

道すがら食えそうなもんを見つけろって事か

そう！

どうよこれ！いいでしょ!?

どうよこれって言っちゃったよ

ゴールはあそこに見えるでっかい木よ！

制限時間は3時間!!

異議ないわね!?

…あぁ いいぜ

何たってこっちには料理長がいるからな

え…

俺もいいぜ

こっちは機動力で勝負だ

ムン

勝負だ

それじゃあ3時間後よ

ス…

私とネルは先に向こうでお腹をすかせて待ってるわ

きっきあんなに胃子食っといて…

というわけでハイキングバトルセカンドステージ

ガ〃〃

スタート!!

つぶねぇ…

大丈夫ですか!?

ズン

うおっ

クソ…
走らねぇよん
楽かと思ったが

これは
これでキチィぜ
……

体の重みで
もってかれる

無理せずゆっくり
行きましょう

私が平坦な道探して
ナビしますから

お…おう

トッ

おい 遅いぞ
早く来い

ちょっと待て

この段差を
行けってのか!?

もうちょっと
まともな道
選びやがれ

甘ったれるな

お菓子つまみ
ながら言うんじゃ
ねえ!!

ここまで
来れたらお前にも
一つやろう

いらねぇよ…

わかった
もう道選びは
いいから

食材になり
そうなもん
探してきてくれ

スタズさん
ここにもキノコ
ありましたよ

あ!

おお そうか…

それで道は?

あっ こっちにも
キノコ

…道は?

ゴロン
いやー

…それで？

何よここ いいトコじゃない？
知らなかったわ 魔界にこんな場所があるなんて
テント 張れたよ 姉ちゃん
ウム ごくろう

そんなもん
どこから出して
きたわけ？

ん？　何が？

何が？　じゃないよ

がっつり
バケットとか
パテとか…

これから
みんなの食材
食うんだろ？

大丈夫よ
こんくらい

キャビアも
あるから

だいたい　ここに
来るまでキノコとか
しかないんだから
どーせ

パシ

あ…そのバケット
切ってくれる？

…ったく

知らないよ
どうなっても…

ガサ

！

スタズさん！

あー はいはい
キノコね

違います よ！

平地に出ました

何っ

おお――

ナイス
ナビゲートだぜ
冬実

フフ…これが
私の読み能力
です

くっ…

トンチンカンな
誰かさんとは
違うんですよ

何だお前
やけにつっかかってくる
じゃねぇか

そうやって俺を
惑わす作戦か!?

…はい

はい!?

だって…最近
スタズさん 私に優し
すぎるんですもん…

ちょっと前まで
私って…もっと雑に
扱われてましたし

?

何だったら私より
私の骨の方が大事って
感じだったじゃない
ですか…

……

それなのに今は

すごく守って
くれようとして…

私の事…
知りたがって
くれてて…

勘違いしちゃいますよ…

私…

惑わしてるのはスタズさんの方です

ゴゴゴゴ

やばい…

…だから…

このタイミングで…

血が…

脱いで下さい

へ？

ズサ

ドサ

あ…

おい!?

マジかよ

！

すみません…

ララ…

お前…
なんつう時に…

ガバッ

自分でその事に
気づいてますか…

待ってろ
今やるから

…スタズさんは

ガ〃〃…

…俺(おれ)が

惑(まど)わす…？

ちゅぽん

自分で言ってて
気付かないの…？
あんたの口ってる
その条件…

満たし続けてるのが
フユミンだって……

……

♠つつく♠

ここは
いー天気
ねぇ

第64話♠弱者の世界

ヒク
ヒク
まさか血のにおいに
つられて…
何(なん)だコイツ…
でけぇ

ブヒー

ブヒ

ドドドドド

ドドドドド

ドドドドド

冬実を放すわけにはいかねぇ…

魔力を使うわけにもいかねぇ…!!

ガシッ

ガシッ

加えてこの超重い足で…

どーやって…

逃げ切れってんだよ

ア"ア"!

ドサッ!!

ズキン

ドサッ

冬実(ふゆみ)!!

スタズ…さん？

ドドド

ガサ ガサ

弱者の世界

じゃくしゃのせかい

ドド

ドド

!!?

何してるんだ スタズ

ドゴォ

ズズズズ

こんな奴 相手に… なさけない

…リズ お前…

どうして ここに……!?

食材を 探してたら ここに来た

あの獲物は
私が倒した
私達チームの
ものだぞ
え…
え……
デーデーン
どうだ ベル
これが
ウチのチームの
機動力だ

文句なく俺達の勝ちだろ？

ウプ

そ…そうねよくやったわ…

ほらふわんこっちゃない…

で…それ…どうやって食べるわけ？

ゴッ

ん

あれ…私…

おう…目ぇ覚めたか

負けたぜ…俺達

え…？

ゴゴゴ

す…すいません
私のせいで

いや…そういう
レベルじゃなく
負けだ

…ダメ…
もう…ダメ…
食べれない…

あんだよ
だらしねぇなぁ

リズの方が
食べてんぞ

自分で仕留めた
獲物の味は格別だ

ガッガッ

な…何の骨なん
ですか あれ…

アレは俺以上
リズ未満だった
奴の骨だ

しょうが
ねぇな…

余った肉は
お前の空間の
冷蔵庫入れとけよ

うう…

やっと
わかったぜ…

ジジイが言ってた
弱者の世界ってやつ

それを俺は
はじめて実感した…

?

修行中…
攻撃しちゃ
いけねぇってのは

ただのルールだ

それを優等生
気分で律儀に守って
死んじまったら意味
ねーし

いざって時に
守るべきなのは
自分の命の方に
決まってる

…けどよ

フッと思ったんだ

もし自分がその術を
持ってなかったら
どうすんだって

目の前で
倒れてる
お前がいて

うしろからは
自分の死が迫ってて

俺がなんの術も持たず
そのまま食い殺されたら

お前はもう
助からないんだなって

そう思ったら

すっげー怖かったんだ

・スタズさん
それって…

お
焼けたな

ほら これお前の
ノルマな

でん

ええ!?

ま…まさか
これ…食べる
んですか

ハァハァ

食べる以外に
選択肢ねぇ
だろ

いくらなんでも
こんなに食べれ
ませんよ…

ずしっ

何言ってんだ

以前の俺なら
お前にこんないい肉
あげてねぇぞ

……もう

またそういう…

おぐ"

言っとくけど
俺はお前を
惑わしてるつもりは
ねェからな

え

その…何だ

勘違いとかじゃなく…

確かに俺はお前をちょっと可愛がってしまっている節がある

そこは認めよう

はい？

だからお前もそのつもりでいていいぞ

……

可愛がるって…

スタズさんの中で私はペットか何かと同じような存在って事ですか？

しかもそのつもりでいろと…？

あーまだこれ焼き足んねェな

ちょっと

もちっと焼こう

スタズさん？

何だよ不満なのかよ

目が覚めたら突然お肉渡されてペット扱いって

受け止められると思います？

いいじゃねェかよ
可愛がってやるって
言ってんだから
いったんそこに
落ち着こうぜ

ほら 冬実
おすわり

(ポン ポン)

ふるふるふる

…いいですよ
わかりました

そのかわり
超可愛がって
下さいね

いつの間にか…

…おう

冬実は
俺無しでは
生きられない
すべては俺次第だったーっ
はずなのに…

ぽむ
よしよし
もちもち
……
どうだ
うまいか？
……
……
あ…はい
なで
なで
……
悪い…
やっぱ違ぇな…
こういうのは
……
別にいいです
けど…
いや…何か
気まずいっつうか
……変だな…
ネル

！

何？姉ちゃん

私…間違ってた…

え？

世の中のものは
何でも自分のものに
できるって思ってた

なぜなら私は
トレジャーハンター
だから

でも手に入れたら
壊れちゃうものも
ある…

それを壊れる
前に気付けて
本当によかった…

もう思い残す事は
ないわ…

何だ何だ
どうした大福

死ぬのか？

やっぱり
さっきのキノコは
毒だったんだ

遺言じゃ
ねーわよ

ただ私は心境を
報告してる
だけよ

はあ？

……

わかってるよ 姉ちゃん…
それを聞いて俺達はどうすりゃいいんだよ
うっさいわね！あんたにまってないのよ！
もう僕は心配してない

うん…じゃあ一緒に次のお宝探しに行こっか

あん？
姉ちゃんならまたすぐ見つかるよ

な…何言ってんのよあんた…そんなコロッと…
え？
思い残すことないとか言っといて引きずってんの？
引きずってないわよ!!

じゃあ いいじゃん
しかし焼きで食うのも流石に飽きてきたな
シチューにしよう
くっ…

お
いいな それ

我輩は今 夕飯の
支度で忙しいのだ
仕事の邪魔を
しないでいただきたい!!

グゥ グゥ

いったい
何であるか

……

……いや…

何もうすっかり
料理長に
なってるんだよ

暗殺を
忘れたのかい
シャム

…まさか

君が読取人
だったとはな

まずはじめに
言っておくと…

何であるか…
この機械は…

これは私が
テキトウに
作っただの
ハリボテだ

特に
意味はない

ただしアキムには
これの機能を

読取人だと
伝える

んなっ!!

我輩の能力を
バラすのか!?

アキムの髪の毛を
入手するのは
簡単だ

全部素直には
言わないよ

もちろん
毛玉の事とかね

し…しかし!
そんな事して
大丈夫なのか!?

変に嘘をつくよりも
その方が安全だろう

そして おそらく

今 アキムの中で何が
起こっているのかを
知りたいのは
アキム自身のはずだ

それを分析できる
とあれば渡りに船…

髪の毛の採取にも
応じるはずだ

う…うむぅ…

それで我輩に
何をしろと…？

いつも通りさ

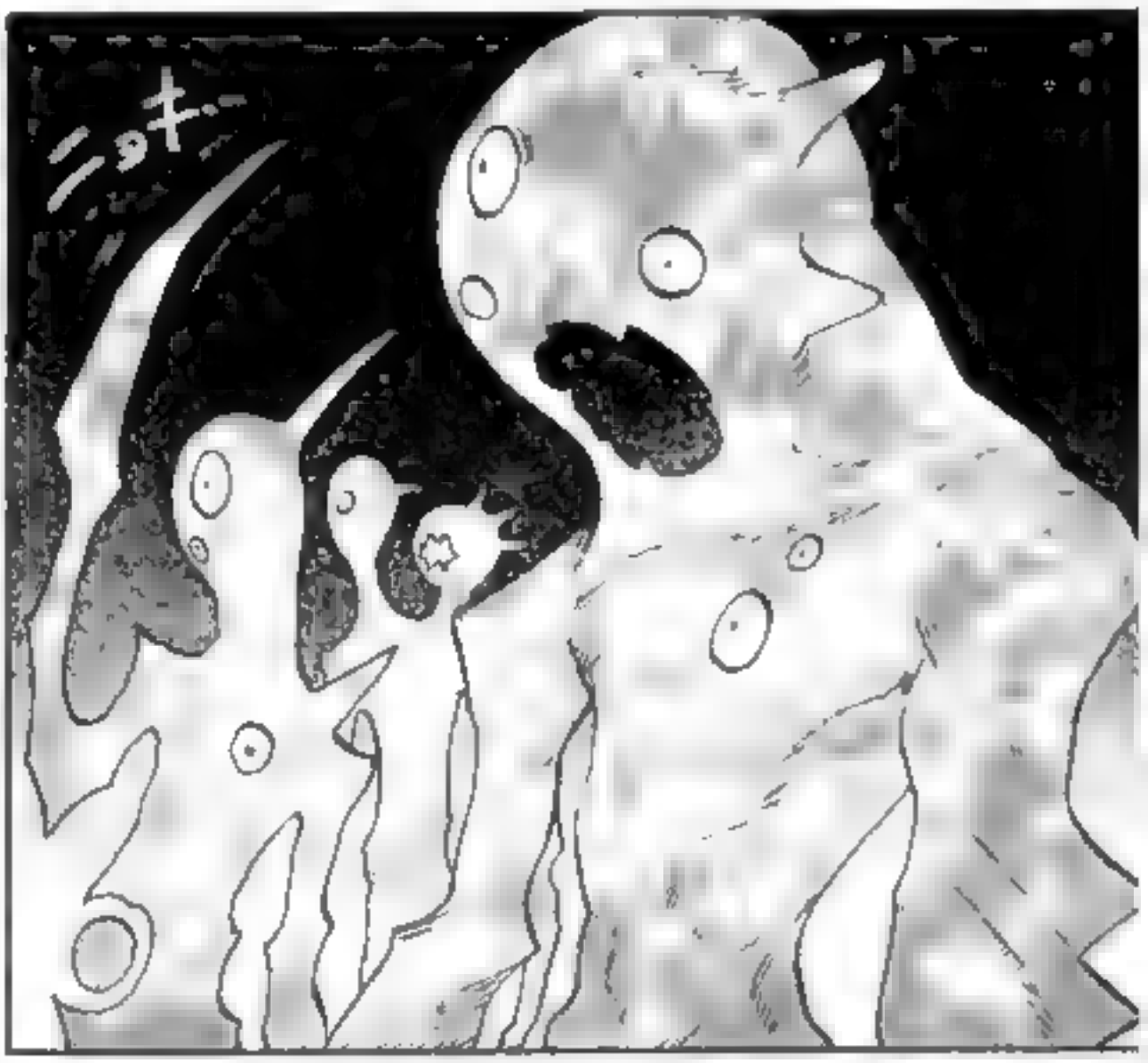
ブラッズが毛を
調達してきたら
食べてくれればいい

ああ…だが
その前に
詳しく教えてくれ

アキムに
説明する時に
ボロが出ては困る
んでね…

その能力は相手の
どこまでわかる？

ピロロ


ニョキ

ボォ

ドロロ

ギュイイイ…

ガロッ

ズドドド

どうした パパ…
こいつら動かない

調子悪いのか

ズダァ

……

…いや

今日は
このくらいに
しよう

次はもっと
レベルを上げる

もっと美しく
立ちまわるイメージを
作ってくんだよ

了解した

王

コイツが話をしたいと

……今は…

ブラッズか…

僕に何の用だい？

下心のある方か

人格が変わらない内にカタをつけなければ…

実は…魔力の測定器を改良していたら面白いものができまして…

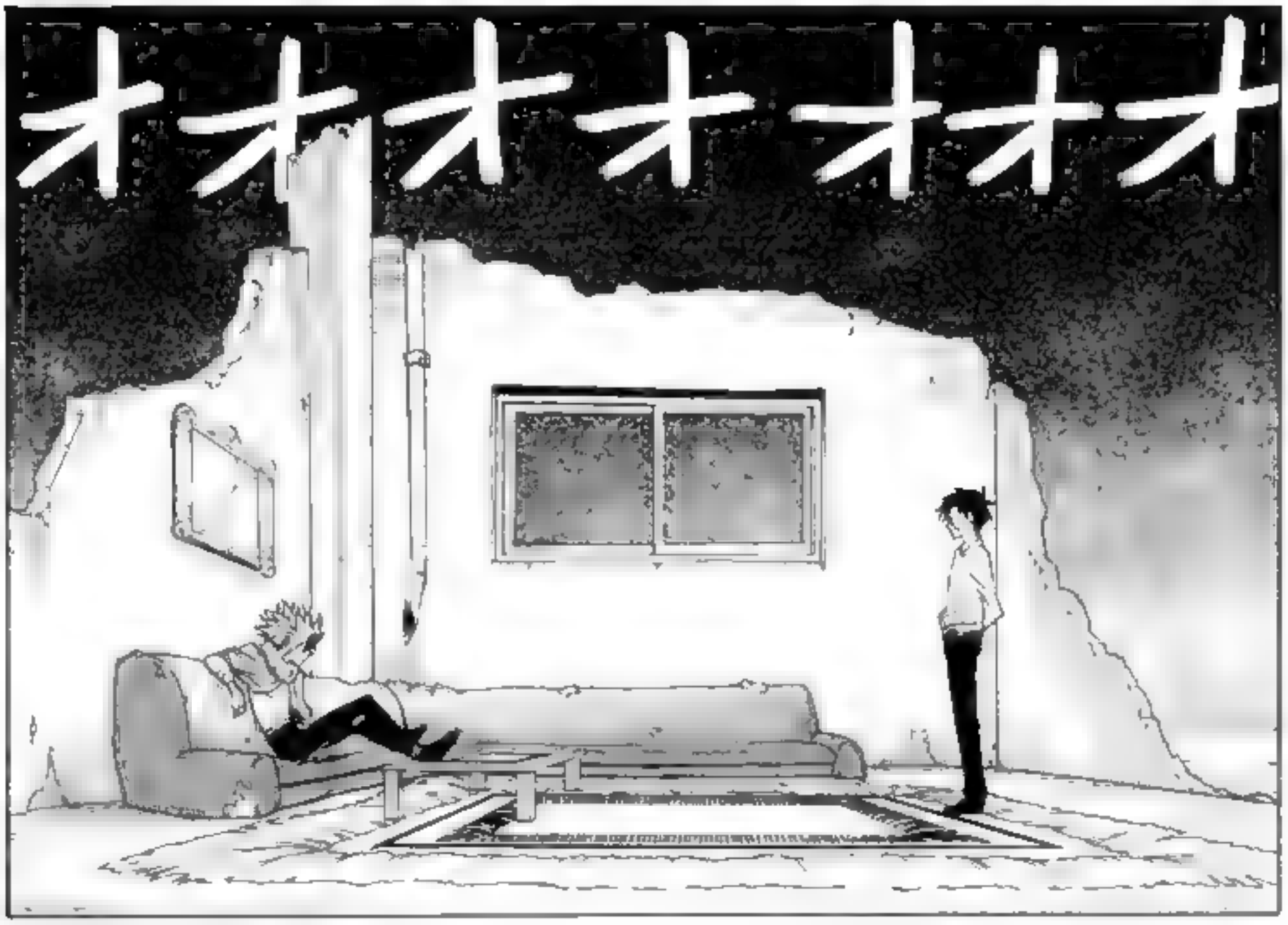
簡単に言うと魔力の成分がわかる様になりました

もし王に興味がおありなら…と思い報告に参った次第ですが…

……

いいよ…聞かせてもらおうか

ありがとうございます



それで？
成分がわかるって言ってたけど
それがわかるとどう面白いんだい？

そうですね…
その■■力の“クセ”がわかるといいますか…
魔力のクセ？
ウム…
魔力はその者の思考によって動いたり形を作ったりするのだ

だから
魔力が
どう動くのかを
我輩は感じとり

その流れのパターン…
すなわちクセを見る事で
相手の思考を読んで
いるのだ！

けっこう
複雑な事してたんだね リーダー

へ～

そうであるぞ
エッヘン
であろう!!

なるほどな…

ではその思考が
一つではなかったら
どうなる？

思考の衝突…

右に行きたい気持ちと
左に行きたい気持ちがあれば
魔力がどちらに流れていいか
わからなくなる…

…おそらく

どこかで
かちあいが起きて
いるであろうな…

ううむ
そんな 平人格
みたいな相手を
読んだ事はないので
わからんが

ううむ…

予想でかまわん

…つまり

そのクセを読む事で
王の魔力が最大限
機能しているかが
わかります

まぁ…すでに
王は完璧に
魔力を使いこなし
ているでしょうが…

万が一…

何か不具合が
ある様ならば…

それを改善
できるやもしれ
ません

……

フーン…

如何で
しょうか…？

それは
何をすれば
わかるの？

お手間は
とらせません

髪の毛を

ほんの数本
いただければ

いいよ…そんなの
使わなくて

ブチ
ブチ

パラ…

ありがとう
ございます

それでは
結果が出次第
また報告させて
いただきます

ブラッズ

俺を裏切(うらぎ)るなよ…

くれぐれも…

もちろんです…

♠つづく♠

うん
うまいよ
このシチュー

アキムが
ブラックリストとの
決戦を行う日まで

残りあと2週間を
切りました

TV

UNTIL END
PARTY.

LO.METAL

魔界の運命を
決める日が迫るに
つれ…

ピリピリとした
ムードがナワバリ各地に
広まっています

先日
西魔界でおこった
暴動に続き
新たに…

……おい
ベロス…

……何スか
部長

第65話♠魔楽器デッド・リゾート

もう いい加減
ベースのありそうな
ショップは手分けして
まわりきったろ

今 我々が
すべき事は
何なのか…

もう一度考え直して
みてもいいんじゃ
ないか…？

GAME OVER
SCORE 02675

あ――ックソ

部長がしゃべりかけるからミスっちったじゃないスか!!

最高記録だったのに!!

……

そうやって延々と終わりのないゲームをするのが好きだなお前は

ありもしないベースを探したり…時間を無駄にするのの天才だ

無駄じゃねーっスよ

そん時そん時やる

やんなくて後悔する時間こそ私にとって無駄な時間なんス

俺は今まさに後悔の真っ最中なんだがな

こんな事に付き合わされて

はぁ〜!?

付いて来てなんて アタシ一言も 言ってませんけど?

部長が勝手に…

ああ わかってる

僕はもう
引けなくなって
いるんだ

本当言うと
ベースだって
見つかって欲しい…

だが もし
見つからなかった時
……

2週間後に
我々はどうする？

……

何もできない
のは嫌だろう

……わかったっスよ

じゃあもし次の
アテが外れたら

少し考えます…

今度のは
カナリ有力なんで

……よし

決まりだ…

行こう

第65話♠魔楽器デッド・リゾート

この辺りか…

おい！
その情報 確か
なんだろうな!?

何だよ確かだっつの

こんな形のベース、見たら忘れねぇよ

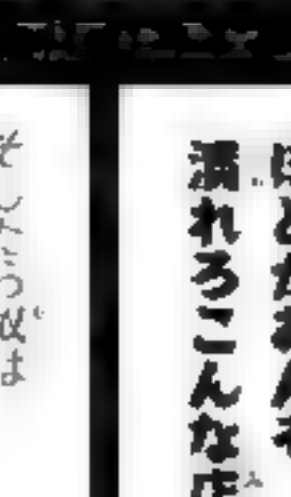
ドコで!?
いつ!? 何してる時に
見たんだよ FAT!!

ファ!?

ひでぇな！ 落ち着けよ！

あれは半年くらい
前だったかな…

そのベースを
持った奴が
ウチの店に来て
こう言ったよ



このベースを
買い取ってくれ
ないか…？

俺は一目そのベースを見てこうゆった

GO HOME
おとといきやがれ
このケツの穴野郎
ッてね HAHAHA

HAHAHA
じゃねーよ この
豚野郎がー!!

見る回数にも
ほどがあんぞ
溺れろこんな店ー!!

ま…待て!!
ウェイト
ウェイト!!

そしたら奴は
これを置いてったんだ…

あ!?

残念だ…
もし気が変わったら
ここに連絡してくれ

おかけになった
電話番号は 電源が入って
いないか
ブッ

だめだ…

何度かけても
繋がらない

やはり直接
その住所を
訪ねるしか
ないようだな

あったっス

あそこのマンション
っスね

ブ――ッ

ブ――ッ

おい ベロス…

おらー
開けろー！
警察だー!!

何でお前は
常時ケンカ腰
なんだよ…

ドドドドド

お

ガイ…

何だ 開いてる
じゃねぇスか

ガチャ

おい！
不法侵入
だぞ!?

今さら法もクソも
ないっスよ…
…って

ん？

ピンポーン

なっ…？
!?

DIE

バカヤロー!!
早まってんじゃねー!!

ギュー

ピク

バカ!!
引っぱってんじゃない!!

!

部長…こいつまだ帰りたてホヤホヤっスよ!

まだあったか!!

だったら余計(よけい)引っぱるんじゃない!!

ん……

バチッ

ちょっ…何だあんた達(たち)

お前の救世主(メシア)だよ!! 思(おも)いとどまれ!!

死ぬんじゃねー!!

死ぬ…!?
何言ってんだよ
俺は死ぬつもりなんてないし!

そのカッコで言うか

じゃあそれはどういうつもりだコノヤロー!!

ええ!?

いやぁ 警察の
方々だったとは…
狭いとこで
すいませんね…
こちらこそ
急にお邪魔
するかたちに
なってすまない
まさか
寝ていただけ
だったとは…
ええ…
自分 エラ呼吸的な
感じで脇で息したり
できるんで…
だからって
吊り寝する奴は
ねぇだろ
すいません…
ウチ…スペース
無いんで…
ゴキャ
それで寝る時
横になるより
縦になったらどうかと
思ってやってみたら
しっくりきちゃいまして

まあ…

しっくりきちゃったとかは個人の自由としてだ…

実は我々が君…えー

あ…自分トム・ジョークっていいます

それは……

魔来器『デッド・リゾート』

魔力を分解する振動を響かせるベースだ

驚いた…

それを知っている魔族が俺以外にいたなんて…

ゴク…

そう トム君…君の所に来たのは

君がこれを持っているんじゃないかと聞きつけて来たんだ

オオオオ

確かにデッド・リゾートは…

俺が持・・・っ・・・ていた・・・ベースです

デケデケデケデケデケデケデケデケ

<イハニー？

なあに？
私のスラッシュ

音楽に
ジャンルは
数あれど

その中でも
この魔界から生まれた
音を知ってるかい？

それがそう

デスメタルだ

ええ
そう

もう５０００回
くらい聞いたわ

おっと
そうだったかい？

でも言わずにはいられないんだ…
DMを聴いてるとね

魔界の音は
良い…

もっと魔界の
音を感じられる
コレクションが
また欲しく
なってきちゃったよ
ハニィイイイイ

はぁ!?

デッド・リミットを
パクられただ!?

あ…あぁ…
ナワバリボスの
スラッシュって奴き…

俺の唯一の
金になるもの
だったのに

買取拒否された
店から出たところで
出くわしちまって

何だよ おめぇ

いーもん
持ってん
ジャジャジャジャ
ジャーン?

クソ!!

あいつさえ
居なきゃ…ベースさえ
売れれば俺は電話料金も
払えてメシも
食えてたのに!

……それで

そのスラッシュって奴はどこにいる

……さぁね

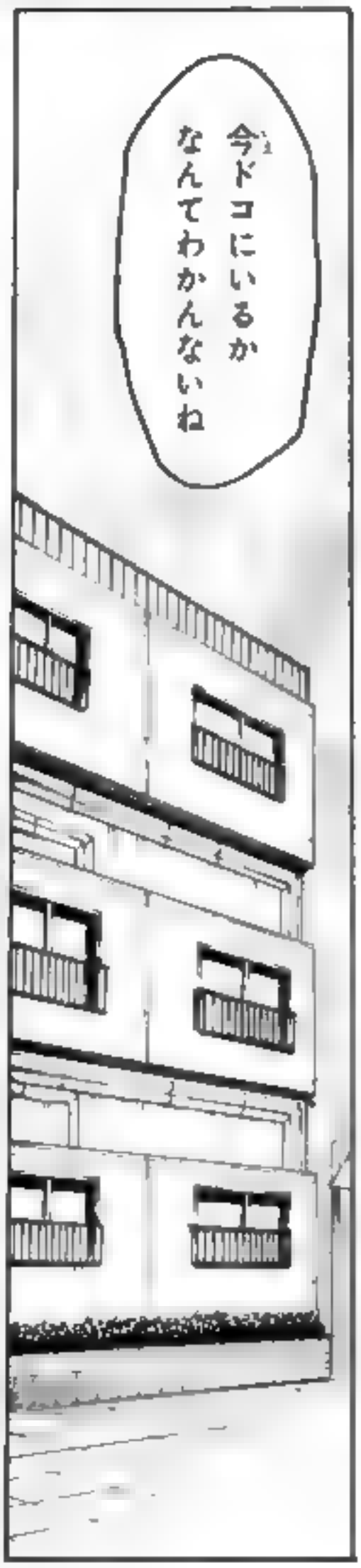
♪

♫

決まった場所じゃなくいっつもどこかフラフラしてる奴だから…俺も偶然会っちまったんだ

ドッ

ドッ



スラッシュの居場所がわかんねぇとか言うから

部長がチメェのために怒ってんだろーが

DIE

……

？

？

チッ

トムたっけ？

バンドやってたのかよ？

え…

あぁ…うん

でも もう やめたよ…

何でやめたんだ？

プス

プス

……

俺…ガレージロックが好きなんだ…60年代くらいの…

でもそんなのは このナワバリじゃ演っちゃいけない

スラッシュはメタラーで…

メタル以外のバンドなんて認めないんだ

ましてや俺のやってるベースなんて

メタル系の中じゃ本当地味な存在でさ……

結局…他のバンドメンバーはボスの好きなメタルバンドに吸収されたりして…

そうか…

それでお前は諦めちまった訳か…

ギュ…

しょうがないだろ…！

ベース一人で何ができるってんだよ…！

できるかどーかじゃねぇ

やるかやんねーかだ

オエ

お…やっと出たっスね
D E

……

苦戦してたじゃないスか
ああ…
いまいち感情が乗らなくてな。
グン
グン

ゲロオオオ
!!

これは特権乱用ってやつだが…
グン
グン

半分やつあたりだ
溜まった鬱憤を吐き出させてもらった…

今さら法もクソもねーっス

YAH——!!

行くぞ アンクリー

あ…

あと最後に…

これからアタシ達は
お前ぇのベースを
取り返しに行くが

お前には
返さないぜ

もう弾く気は
無ぇみたいだからな
アタシが預かる

…けども
やらかしたく
なったら

グエッ

ラ…

ったくよぉ…
よこせっつったら
さっさとよこせよな

お前のギターが
俺のコレクションに
仲間入りできんだぜ

これほど
ハッピーな事は
無いだろうが

取り返しに
来いよ

いつでもな…

んもー
スラッシュったら

こないだも
ギターもらった
ばっかりじゃない

もー起き
ちゃったのー？

バカあれは
ベースだったんだよ

へー

俺に似合うのは
やっぱギターだろ？
ハニー

そーなんだぁ
スゴーイ

チッ…

ロクに
弾けない
くせに…

あ？

聞こえたぞ
テメェ…あ？

俺様がギターを
弾けないだと？
あ？

返せよ!!

返せよ…
俺のギター…

そんなに返して欲しかったら…

返してみるさ

YAH——!!

オオ

いたぞ ベロス!!
あいつだ!!

バ
ッ

クルクル
フラーイング
クル クル

LOL
Vイイ
OK

ドドド

ありがとうございます…！

ありがとうございます

こんな俺のために…

いやいや…僕達は…

ブンブン

すいません！すいません！

おう 土下座で ヘッドバンギング かます奴 初めて見たぜ

ださーい

うるせぇ お前は黙ってろビッチ!!

あん？

いやいや！姉ーさんの事じゃないす 姉ーさん!!

え…

トムと会ったんですか？

ああ…知り合いなのか？

バンド仲間っスよ！

あ…正確には仲間だったですけど……

……そうか

どうぞ…

これが取りあげたベースです…姉さん…

おう…姉さんって言うな

ださーい

ついに来ましたよ部長…この時が

ああ

それは…トムのベース…！

まさか わざわざそれを取り返しに…!?

それじゃ俺はこれで

へっへっへっ

ださーい

おう もう悪さすんなよ

そうだ

このベースこそ僕等が探し求めていたベースだ

……えだって

そのベースって……

ガチャ

ハルキーム

それ…

っっ

トムの手作り…なんですよ…

あいつ…ちょうどそのコミックが大好きで…

あ…内容知ってます…？

バトルなコミックなんですけど…

スーパーな力を持つ者達がバンドを組むんです

そしてその音の力で悪をねじ伏せ音の力で人を救うんです

あぁ 読んだぜ

最高にクールだった

トムも…

そうなりたいって…

力じゃかなわないけど…俺達の音で…

あいつを倒したいって…

……結局…

負けちゃいましたけど…

DIE

……

……残念だったな…

どうやら これが現実だ

本物のデッド・リゾートは存在しなかった

我々の旅もこれで終わりだ…

……そうっスね…

ギュッ…

ではこれは

アタシが預かるっス

約束しちゃったんで…あいつと

アタシはこのベースで
バンドとテッペン取って
やるっスよ……

またお前は…

テッペンて、

上司の前で
堂々と副業
の話を…

まぁいいか…

細かい事は

お

部長もノリが
わかってきたじゃねーすか

じゃあ まあ
とりあえず一発
メシでもキメてき
ますか

バカもん…
これから
どうするかの
作戦会議だ！

だから それ
メシ キメながらで
いいじゃねぇスか

おう
お前ぇも来いよ

え…!?

この辺でどっか
ウマいとこ
連れてってくれ

ちょっと待て
ベロス…

いいじゃねぇスか
ノリッスよ ノリ

TV

—の地域でも
被害が拡大して
います

残り2週間…

我々に今できる
事は何か？

すべき事は
何か……

ブッハッハッ
何すか部長
かわいいっスね

い 僕そ 違う！…
そういう事なら
僕はハンバーグが
いい

今一度考えるべき
なのかもしれません

♠つづく♠

To Be Continued

サードアイに生きる

カラ〜ン

カラ〜ン

鬼が来た

アタックする鬼(体)

ウィース

カラン

カラン

気に入った鬼

あらー これ
美味しいわー

コーヒーの味も
良いし ますます
良い店じゃなーい？

よくわかってる
じゃねぇか
ムキビッチ

客が入らないのは
あんたの口が悪いせいね

いいや…
ここに客が来ないのは
俺や…ボスが
居るからだ

ギロッ

皆怖がって
近寄らねぇのさ…

って!!
デクさん!?

まぁ…
お客が来た
じゃない

何つうカッコ
してんスか!?

趣味悪いにも
程がありますよ

恥ずかしく
ないんですか
そんな服着て

まるで
ナイトメア…

フーン…アタシは
怖くないわよ

バッチン

むしろあなた
みたいな人が
タ・イ・プ

ガクガク

ズル…

アタックする鬼(心)

全員 鬼

END

角川コミックス・エース
ブラッドラッド(13)

著者：小玉有起

©Yuuki KODAMA 2015

2015年3月4日　発行

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました
角川コミックス・エース『ブラッドラッド(13)』
2015年3月4日初版発行

発行者　堀内大示
発行所　株式会社KADOKAWA
http://www.kadokawa.co.jp/

〒102-8177　東京都千代田区富士見2-13-3
03-3238-6745(営業)
編集　角川書店
〒102-8078　東京都千代田区富士見1-8-19
03-3238-8541(編集部)

装幀・デザイン：佐々木基

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、配信、送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
また、本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
本作品購入時にご承諾いただいた規約により、有償・無償にかかわらず
本作品を第三者に譲渡することはできません。
本作品を示すサムネイルなどのイメージ画像は、再ダウンロード時に
予告なく変更される場合があります。
ご覧になるリーディングシステムにより、表示の差が認められることがあります。
この物語はフィクションであり、実在の人物・団体とは関係がございません。